

## 令和4年度第1回天草市総合教育会議 会議録

1 期 日 令和4年5月24日（木）午後3時30分開会

2 場 所 天草市役所本庁 庁議室

3 出席した委員等

市長	馬場昭治	教育長	石井二三男
委員	木下えり子	委員	行合八恵子
委員	吉森啓司	委員	池崎教授

4 欠席した委員等

なし

5 出席した職員

教育部長	平野貢司	教育総務課長	本多俊隆
学校教育課長	赤星潤一	生涯学習課長	岡田恵
学校給食課長	堀口広正	学校教育課審議員	酒井成寿
学校教育課課長補佐	堀田美穂	学校教育課教務係長	盛田達矢
学校教育課参事	伊形英朗	学校教育課参事	今福恭仁彦
生涯学習推進係長	坂本真理子	学校給食課管理係長	渡邊英治
教育総務課施設係長	正村謙一	教育総務課総務企画係長	松下美紀

6 議題

- (1) 第3次天草市総合計画及び第3次天草市教育振興基本計画の策定について
- (2) 幼稚園、小・中学校の施設の状況について

7 報告事項

- (1) 不登校・いじめ問題等の状況について
- (2) 学校ICTの取組みについて

8 会議の概要

(1) 開会

開会にあたり、事務局より、会議出席者の紹介及び傍聴者の報告を行った。

(2) 市長あいさつ

馬場市長より、会議開催にあたり、日頃の教育行政への協力及びコロナ禍における教育環境の取組みへのお礼が述べられ、令和5年度からの第3次天草市総合計画及び第3次教育振興基本計画における協議への積極的な意見交換が依頼された。

(3) 協議・調整事項（発言要旨）

① 第3次天草市総合計画及び第3次天草市教育振興基本計画の策定について

（教育総務課から、資料に基づき第3次天草市総合計画及び第3次天草市教育振興基本計画の策定

の概要について説明)

馬場市長： 昨年の総合教育会議において現在の教育大綱についてご協議いただき、それまでの計画的な教育行政を尊重したいとの考え方から見直しを行わず、令和3、4年度は現行の教育大綱により継続して教育行政を行っているところである。これから教育振興審議会において令和5年度からの教育振興基本計画について具体的な審議を行っていくため、教育委員からの意見を伺いたい。

木下委員： 教育大綱は継続し、大綱に基づき第3次天草市教育振興基本計画を見直していくといい。令和5年から11年度までの7年間で必要に応じて見直すとなっている。第2次は昨年、改定版も出されているので、社会の流れに対応していくために見直しが必要である。見直す際は、本市の学校教育や生涯学習の課題解決に向けた施策の展開を望む。

教育総務課長： 課題の整理を行い、新学習指導要領に沿って主体的・対話的で深い学び、特別支援教育の充実、学校と地域の連携などを基本に考えていく。

吉森委員： 教職員の働き方改革と言われるが、どこまで浸透しているのか。教職員不足の問題もあるが、仕事内容についての改革ができたらいいのではないか。

学校教育課長： 教職員の働き方については情報化が進んでおり、タブレットでの健康チェックや、超過勤務者報告は学校に還元し、校長から指導を行うなどしている。

馬場市長： 小学校では部活動もなくなってきて、以前に比べると労働時間は少なくなっている。市としてもDXやICTなどに力を入れていかなければならない。教職員のなり手不足が問題だが、仕事が魅力的になるように考えていかなければならない。体験学習がきっかけになっていくと良い。地域とのつながりが大事で「ともに学びともに育つまち」を皆で一緒に、世代を超えて、地域を残していくためにも先生方をカバーしていくことができたらいい。

池崎委員： 第2次の基本理念、あまくさの未来を拓く「人」づくり、第3次のともに学びともに育つまちとあるが、第3次の案の中で人づくりの部分でこういう人になって欲しい、天草をこの様に思ってほしいなど、願いを込めてもっとこういう風になりたい、というように突き詰めて考えられないか。

教育総務課長： どういった表現が良いのか、分かりやすいようにしたい。

馬場市長： 天草の子供たちに、天草を愛して欲しいし、故郷を残していく責任がある。その部分をしっかりと持った大人に育ってほしいというメッセージを伝えていきたい。

石井教育長： こんな子供たちに、こんな人に、という願いを込めたい。御所浦北小の統合の際、「この島に何を学び、この島に何を残す」というメッセージが残してある。また、常々「地理的にへき地はあっても教育にへき地はない、あってはならない」と言っている。子供たちに色々なことにチャレンジをさせ、天草に産まれ、天草で育ってよかったと思ってもらいたい。

木下委員：各学校の学校経営案には、目指す教師像や子ども像が必ず明記してある。具体的に掲げることも良いことだと思う。

馬場市長：しっかりしたメッセージというの必要である。

次に計画策定に関連して公立幼稚園のあり方についての協議について、ご意見はいか。

木下委員：幼稚園を訪問した際、一人一人に丁寧に対応されていて、保護者の啓発にも努めているが、園児数は減少している。あくまで個人の意見であるが、3園を2園もしくは1園にし、教職員の数を確保し、天草市立幼稚園の設立をしたらどうか。天草市の幼児教育の中心として就学前教育を推進してもらいたい。

## ② 幼稚園、小・中学校の施設の状況について

(教育総務課から、資料に基づき幼稚園、小・中学校の施設の状況について説明)

馬場市長：施設やあり方を含め、ご意見はないか。

石井教育長：幼稚園のあり方について、他の委員さんの意見を聴きたい。

吉森委員：幼保の違いや差が無くなってきた。教育面など幼稚園の違いが分かるような体制が必要ではないか。木下委員の意見には賛成である。

行合委員：集団の中で子供たちは育つので、園児数が減り、集団の中での育ちが保障されているのかに関しては疑問を持っている。幼稚園と保育園は指導の仕方が違う。公立幼稚園はなかなか特色が出せないし、公的支援補助は保育園優先であるので、もっと特色を出して欲しい。経験の中から人格形成ができる。統合はあってもいいし、教師の人材も豊富になっていくので、教師の質やスキルアップをお願いしたい。教育的視点が必要で、子供たちの発達に目が向けられるような研修が必要である。

池崎委員：牛深は牛深幼稚園が閉園し保育園だけになった。一概に統合するのが良いかは判断しがたい。

学校教育課課長補佐：以前、県義務教育課で就学前教育の担当をしていた。県内の園や保育園を回り、就学前教育の質を高めるための取組みをしてきた。公立幼稚園はとても大事であり、保育園も就学前教育について研修をされている。天草市の幼児教育の質を高め、小学校へ上げていくことについて議論していく必要がある。私立幼稚園には特色もある。

行合委員：保護者の思いとしては、いい保育や教育をしていれば遠方でも通わせる。公立と私立のバランスが難しいと感じている。

馬場市長：数をどうするかはご意見をいただき、しっかり地域と協議しなければならないし、今後議論していきたい。

行合委員：保育料の無料化はどうになっているか。

教育総務課長：3歳児以上は無料である。

木下委員：小・中学校の施設状況について、本渡北小と本町小の校舎は築50年以上経っており、安心して学べる環境を確保するための建て替えには莫大な事業費がかかる。長寿命化を図ると80年も可能と聞いている。本町小は数年後には複式学級になる学年もある。校舎の耐久化も図りながら、本渡北小との統合や校舎の建て替えも考えていく必要があると思う。先を見通した計画が必要である。

行合委員：新和小・中学校、栖本小・中学校のように、どちらかが耐用年数が来ているところの対応はどのように考えているのか。

教育総務課長：問題となるのは旧耐震構造であり、早めに対応しなければならない。統廃合は平成30年までに実施したが、今後の統廃合は難しいところであるし、小中連携についても慎重に協議をしていきたい。

石井教育長：新たな問題として、天草小においては複式解消のため市費で教職員を付けているが、今後は他にも出てくる。中学校においては競争が必要だから統合した方が良いという意見や、旧町には小さくなても学校が必要であるという意見が出てくる。教育委員会としての意見を問われた時にどう考えていくのか。

馬場市長：町を超えた学校の統合をどう考えていくのか、ご意見をいただきたい。

池崎委員：現実的に中学校の部活が遠距離でも合同になってきている。今後、生徒が増えていかないようなら統合も考えないといけないのかもしれない。

馬場市長：統合しないと子供たちの機会を奪うことになる、できることが限られてくるという意見もある。少子高齢化を止めるための努力はしなければいけない。

石井教育長：仮に天草中を例にした場合、天草中と河浦中ではなく、福連木地区は稜南、大江軍浦地区は河浦に近いと考えたら、一概に地域で統合とは言えないし、地域の中で別の学校になることになる。新和中は稜南中と、という意見もある。この先、幼稚園も併せて避けて通れない大きな課題である。地域には地域の意見がある。

木下委員：校舎の計画を考えるときに、統合は併せて計画していかなければならない。

#### (4) 報告事項

##### ① 不登校・いじめ問題等の状況について

(学校教育課から、資料により市内不登校及びいじめの状況等について報告)

##### ② 学校ＩＣＴの取組みについて

(学校教育課から、資料によりＩＣＴの取組み状況等について報告)

#### (5) 閉会

市長の宣告により閉会する。